



Red Hat Data Grid 8.3

Data Grid Spring Boot スターター

SpringBoot プロジェクトでの Data Grid の使用

Red Hat Data Grid 8.3 Data Grid Spring Boot スタートー

SpringBoot プロジェクトでの Data Grid の使用

法律上の通知

Copyright © 2023 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

Spring Boot プロジェクトが Data Grid とシームレスに対話するために必要なすべてを含む一連の管理された推移的な依存関係を使用して、Spring Boot プロジェクトをすばやく起動して実行します。Data Grid Spring Boot スターターは、Spring Boot を開始するための便利な方法を提供しますが、オプションであることに注意してください。Spring Boot で Data Grid を使用するには、必要な依存関係を追加するだけです。

目次

RED HAT DATA GRID	3
DATA GRID のドキュメント	4
DATA GRID のダウンロード	5
多様性を受け入れるオープンソースの強化	6
第1章 プロジェクトの設定	7
1.1. DATA GRID バージョンの適用	7
1.2. 使用モードの依存関係の追加	7
第2章 埋め込みキャッシュの使用	9
2.1. EMBEDDED CACHEMANAGER BEAN の追加	9
2.2. キャッシュマネージャーの設定 BEAN	9
2.3. SPRING キャッシュサポートの有効化	10
第3章 リモートキャッシュの使用	12
3.1. REMOTE CACHEMANAGER の設定	12
3.2. マーシャリングの設定	12
3.3. キャッシュマネージャーの設定 BEAN	13
3.4. SPRING キャッシュサポートの有効化	14
3.5. DATA GRID 統計の公開	14
第4章 SPRINGSESSION の使用	16
4.1. SPRING SESSION サポートの有効化	16
第5章 アプリケーションのプロパティ	17

RED HAT DATA GRID

Data Grid は、高性能の分散型インメモリーデータストアです。

スキーマレスデータ構造

さまざまなオブジェクトをキーと値のペアとして格納する柔軟性があります。

グリッドベースのデータストレージ

クラスター間でデータを分散および複製するように設計されています。

エラスティックスケールリング

サービスを中断することなく、ノードの数を動的に調整して要件を満たします。

データの相互運用性

さまざまなエンドポイントからグリッド内のデータを保存、取得、およびクエリーします。

DATA GRID のドキュメント

Data Grid のドキュメントは、Red Hat カスタマーポータルで入手できます。

- [Data Grid 8.3 ドキュメント](#)
- [Data Grid 8.3 コンポーネントの詳細](#)
- [Data Grid 8.3 でサポートされる設定](#)
- [Data Grid 8 機能のサポート](#)
- [Data Grid で非推奨の機能](#)

DATA GRID のダウンロード

Red Hat カスタマーポータルで [Data Grid Software Downloads](#) にアクセスします。



注記

Data Grid ソフトウェアにアクセスしてダウンロードするには、Red Hat アカウントが必要です。

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[弊社](#) の CTO、Chris Wright の [メッセージ](#) を参照してください。

第1章 プロジェクトの設定

Data Grid Spring Boot スターターの依存関係をプロジェクトに追加します。

1.1. DATA GRID バージョンの適用

このスターターは、高レベルの API を使用して、Data Grid のメジャーバージョン間の互換性を確保します。ただし、**infinispan-bom** モジュールを使用して特定のバージョンの Data Grid を適用できます。

手順

- スターターの依存関係の前に、**pom.xml** ファイルに **infinispan-bom** を追加します。

```
<properties>
  <version.infinispan>13.0.10.Final-redhat-00001</version.infinispan>
</properties>

<dependencyManagement>
  <dependencies>
    <dependency>
      <groupId>org.infinispan</groupId>
      <artifactId>infinispan-bom</artifactId>
      <version>${version.infinispan}</version>
      <type>pom</type>
      <scope>import</scope>
    </dependency>
    <dependency>
      <groupId>org.springframework.boot</groupId>
      <artifactId>spring-boot-starter-parent</artifactId>
      <version>${version.spring.boot}</version>
      <type>pom</type>
      <scope>import</scope>
    </dependency>
    <dependency>
      <groupId>org.infinispan</groupId>
      <artifactId>infinispan-spring-boot-starter</artifactId>
    </dependency>
  </dependencies>
</dependencyManagement>
```

重要

Data Grid Spring Boot スターターは、Red Hat OpenShift Application Runtimes などの他のプロジェクトとは異なる Spring Boot バージョンを使用します。他のプロジェクトと互換性を確保するために特定の Spring Boot バージョンを使用する場合は、プロジェクトに正しい依存関係を追加する必要があります。

1.2. 使用モードの依存関係の追加

Data Grid は、埋め込みキャッシュとリモートキャッシュに対して別の依存関係を提供します。

手順

- 次のいずれかを **pom.xml** ファイルに追加します。

埋め込みキャッシュ

```
<dependency>  
  <groupId>org.infinispan</groupId>  
  <artifactId>infinispan-spring-boot-starter-embedded</artifactId>  
</dependency>
```

リモートキャッシュ

```
<dependency>  
  <groupId>org.infinispan</groupId>  
  <artifactId>infinispan-spring-boot-starter-remote</artifactId>  
</dependency>
```

第2章 埋め込みキャッシュの使用

インメモリーデータストレージ向けに Data Grid キャッシュをプロジェクトに直接埋め込みます。

2.1. EMBEDDEDCACHEMANAGER BEAN の追加

埋め込みキャッシュを使用するようにアプリケーションを設定します。

手順

1. **infinispan-spring-boot-starter-embedded** をプロジェクトのクラスパスに追加して、埋め込みモードを有効にします。
2. 次の例のように、Spring **@Autowired** アノテーションを使用して、Java 設定クラスに **EmbeddedCacheManagerBean** を含めます。

```
private final EmbeddedCacheManager cacheManager;

@Autowired
public YourClassName(EmbeddedCacheManager cacheManager) {
    this.cacheManager = cacheManager;
}
```

これで、次の例のように、アプリケーション内でデータグリッドキャッシュを直接使用する準備が整いました。

```
cacheManager.getCache("testCache").put("testKey", "testValue");
System.out.println("Received value from cache: " +
    cacheManager.getCache("testCache").get("testKey"));
```

2.2. キャッシュマネージャーの設定 BEAN

次の設定 Bean を使用してキャッシュマネージャーをカスタマイズできます。

- **InfinispanGlobalConfigurer**
- **InfinispanCacheConfigurer**
- **設定**
- **InfinispanConfigurationCustomizer**
- **InfinispanGlobalConfigurationCustomizer**



注記

InfinispanGlobalConfigurerBean は1つしか作成できません。ただし、他の Bean を使用して複数の設定を作成できます。

InfinispanCacheConfigurer Bean

```
@Bean
public InfinispanCacheConfigurer cacheConfigurer() {
```

```

return manager -> {
    final Configuration ispnConfig = new ConfigurationBuilder()
        .clustering()
        .cacheMode(CacheMode.LOCAL)
        .build();

    manager.defineConfiguration("local-sync-config", ispnConfig);
};
}

```

設定 Bean

次のように、設定するキャッシュに Bean 名をリンクします。

```

@Bean(name = "small-cache")
public org.infinispan.configuration.cache.Configuration smallCache() {
    return new ConfigurationBuilder()
        .read(baseCache)
        .memory().size(1000L)
        .memory().evictionType(EvictionType.COUNT)
        .build();
}

@Bean(name = "large-cache")
public org.infinispan.configuration.cache.Configuration largeCache() {
    return new ConfigurationBuilder()
        .read(baseCache)
        .memory().size(2000L)
        .build();
}

```

カスタマイザー Bean

```

@Bean
public InfinispanGlobalConfigurationCustomizer globalCustomizer() {
    return builder -> builder.transport().clusterName(CLUSTER_NAME);
}

@Bean
public InfinispanConfigurationCustomizer configurationCustomizer() {
    return builder -> builder.memory().evictionType(EvictionType.COUNT);
}

```

2.3. SPRING キャッシュサポートの有効化

Data Grid は、組み込みキャッシュとリモートキャッシュの両方を使用して、有効にできる Spring Cache の実装を提供します。

手順

- **@EnableCaching** アノテーションをアプリケーションに追加します。

Data Grid スターターが以下を検出した場合:

- **EmbeddedCacheManager** Bean。新しい **SpringEmbeddedCacheManager** をインスタンス化します。
- **RemoteCacheManager** Bean。新しい **SpringRemoteCacheManager** をインスタンス化します。

参考資料

[Spring キャッシュリファレンス](#)

第3章 リモートキャッシュの使用

カスタム TCP バイナリーワイヤプロトコルである Hot Rod を使用して、リモートの Data Grid クラスターからデータを保存および取得します。

3.1. REMOTECACHEMANAGER の設定

Data Grid クラスターでリモートキャッシュを使用するようにアプリケーションを設定します。

1. スターターが **RemoteCacheManagerBean** を作成できるように、Data Grid Server がクライアント接続をリッスンするアドレスを指定します。
2. Spring **@Autowired** アノテーションを使用して、独自のカスタムキャッシュマネージャークラスをアプリケーションに含めます。

```
private final RemoteCacheManager cacheManager;

@Autowired
public YourClassName(RemoteCacheManager cacheManager) {
    this.cacheManager = cacheManager;
}
```

3.1.1. プロパティファイル

hotrod-client.properties または **application.properties** のいずれかでプロパティを指定できます。

プロパティは、両方のプロパティファイルに含めることができますが、スターターは最初に **hotrod-client.properties** の設定を適用するので、**application.properties** よりもファイルが優先されます。

hotrod-client.properties

このファイルのプロパティは、**infinispan.client.hotrod.*** の形式を取ります。次に例を示します。

```
# List Data Grid servers by IP address or hostname at port localhost:11222.
infinispan.client.hotrod.server_list=127.0.0.1:11222
```

- [Hot Rod クライアント設定 API](#)

application.properties

このファイルのプロパティは、**infinispan.remote.*** の形式を取ります。次に例を示します。

```
# List Data Grid servers by IP address or hostname at port localhost:11222.
infinispan.remote.server-list=127.0.0.1:11222
```

関連情報

- [アプリケーションのプロパティ](#)

3.2. マーシャリングの設定

Java オブジェクトをバイナリー形式にマーシャリングするように Data Grid を設定して、ネットワーク経由で転送したり、ディスクに保存したりできるようにします。

デフォルトでは、Data Grid は Java シリアル化マーシャラーを使用するため、クラスを許可リストに追加する必要があります。別の方法として、ProtoStream を使用できます。これには、クラスにアノテーションを付けて、カスタム Java オブジェクトの **SerializationContextInitializer** を生成する必要があります。

手順

1. **hotrod-client.properties** または **application.properties** を開いて編集します。

2. 次のいずれかを行います。

- マーシャラーとして ProtoStream を使用します。

```
infinispan.client.hotrod.marshaller=org.infinispan.commons.marshall.ProtoStreamMarshaller
```

```
infinispan.remote.marshaller=org.infinispan.commons.marshall.ProtoStreamMarshaller
```

- Java シリアル化を使用する場合は、使用するクラスをシリアル化許可リストに追加します。完全修飾クラス名のコンマ区切りリストまたはクラスを照合するための正規表現を指定できます。

```
infinispan.client.hotrod.java_serial_allowlist=your_marshaled_beans_package.*
```

```
infinispan.remote.java-serial-allowlist=your_marshaled_beans_package.*
```

3. プロパティファイルを保存して閉じます。

関連情報

- [キャッシュのエンコードとマーシャリング](#)

3.3. キャッシュマネージャーの設定 BEAN

次の設定 Bean を使用してキャッシュマネージャーをカスタマイズします。

- **InfinispanRemoteConfigurer**
- **設定**
- **InfinispanRemoteCacheCustomizer**



注記

InfinispanRemoteConfigurerBean は1つしか作成できません。ただし、他の Bean を使用して複数の設定を作成できます。

InfinispanRemoteConfigurer Bean

```
@Bean
public InfinispanRemoteConfigurer infinispanRemoteConfigurer() {
    return () -> new ConfigurationBuilder()
        .addServer()
        .host("127.0.0.1")
}
```

```

        .port(12345)
        .build();
    }

```

設定 Bean

```

@Bean
public org.infinispan.client.hotrod.configuration.Configuration customConfiguration() {
    new ConfigurationBuilder()
        .addServer()
        .host("127.0.0.1")
        .port(12345)
        .build();
}

```

InfinispanRemoteCacheCustomizer Bean

```

@Bean
public InfinispanRemoteCacheCustomizer customizer() {
    return b -> b.tcpKeepAlive(false);
}

```

ヒント

@Ordered アノテーションを使用して、カスタマイザーを特定の順序で適用します。

3.4. SPRING キャッシュサポートの有効化

Data Grid は、組み込みキャッシュとリモートキャッシュの両方を使用して、有効にできる Spring Cache の実装を提供します。

手順

- **@EnableCaching** アノテーションをアプリケーションに追加します。

Data Grid スターターが以下を検出した場合:

- **EmbeddedCacheManager** Bean。新しい **SpringEmbeddedCacheManager** をインスタンス化します。
- **RemoteCacheManager** Bean。新しい **SpringRemoteCacheManager** をインスタンス化します。

参考資料

[Spring キャッシュリファレンス](#)

3.5. DATA GRID 統計の公開

Data Grid は、Spring Boot Actuator をサポートして、キャッシュ統計をメトリクスとして公開します。

手順

1. **pom.xml** ファイルに以下を追加します。

```
<dependency>
  <groupId>org.springframework.boot</groupId>
  <artifactId>spring-boot-starter-actuator</artifactId>
  <version>${version.spring.boot}</version>
</dependency>

<dependency>
  <groupId>org.springframework.boot</groupId>
  <artifactId>spring-boot-starter-web</artifactId>
  <version>${version.spring.boot}</version>
</dependency>
```

2. プログラムまたは宣言を使用して、適切なキャッシュインスタンスの統計を有効にします。

プログラム

```
@Bean
public InfinispanCacheConfigurer cacheConfigurer() {
  return cacheManager -> {
    final org.infinispan.configuration.cache.Configuration config =
      new ConfigurationBuilder()
        .jmxStatistics().enable()
        .build();

    cacheManager.defineConfiguration("my-cache", config);
  };
}
```

宣言

```
<local-cache statistics="true"/>
```

Spring Boot Actuator レジストリーは、アプリケーションの起動時にキャッシュインスタンスをバインドします。

キャッシュを動的に作成する場合は、次のように、**CacheMetricsRegistrarBean** を使用してキャッシュを Actuator レジストリーにバインドする必要があります。

```
@Autowired
CacheMetricsRegistrar cacheMetricsRegistrar;

@Autowired
CacheManager cacheManager;
...

cacheMetricsRegistrar.bindCacheToRegistry(cacheManager.getCache("my-cache"));
```

第4章 SPRINGSESSION の使用

4.1. SPRING SESSION サポートの有効化

Data Grid Spring Session サポートは **SpringRemoteCacheManager** と **SpringEmbeddedCacheManager** をもとに構築されます。Data Grid スターターは、デフォルトでこれらの Bean を生成します。

手順

1. このスターターをプロジェクトに追加します。
2. Spring Session をクラスパスに追加します。
3. 次のアノテーションを設定に追加します。
 - **@EnableCaching**
 - **@EnableInfinispanRemoteHttpSession**
 - **@EnableInfinispanEmbeddedHttpSession**



注記

Data Grid にはデフォルトのキャッシュがありません。Spring Session を使用するには、最初に Data Grid キャッシュを作成する必要があります。

第5章 アプリケーションのプロパティ

application.properties または **application.yaml** を使用してプロジェクトを設定します。

```
#
# Embedded Properties - Uncomment properties to use them.
#

# Enables embedded capabilities in your application.
# Values are true (default) or false.
#infinispan.embedded.enabled =

# Sets the Spring state machine ID.
#infinispan.embedded.machineld =

# Sets the name of the embedded cluster.
#infinispan.embedded.clusterName =

# Specifies a XML configuration file that takes priority over the global
# configuration bean or any configuration customizer.
#infinispan.embedded.configXml =

#
# Server Properties - Uncomment properties to use them.
#

# Specifies a custom filename for Hot Rod client properties.
#infinispan.remote.clientProperties =

# Enables remote server connections.
# Values are true (default) or false.
#infinispan.remote.enabled =

# Defines a comma-separated list of servers in this format:
# `host1[:port],host2[:port]`.
#infinispan.remote.server-list=

# Sets a timeout value, in milliseconds, for socket connections.
#infinispan.remote.socketTimeout =

# Sets a timeout value for initializing connections with servers.
#infinispan.remote.connectTimeout =

# Sets the maximum number of attempts to connect to servers.
#infinispan.remote.maxRetries =

# Specifies the marshaller to use.
#infinispan.remote.marshaller =

# Adds your classes to the serialization allow list.
#infinispan.remote.java-serial-allowlist=
```

